

資料提供年月日	平成29年5月26日	
問い合わせ先	課名	財産活用マネジメント推進課
	電話	内線 4430 直通 086-803-1150
担当者	職名・氏名	審議監 佐々木
	職名・氏名	課長補佐 板野

広 報 連 絡

<市長定例記者会見資料>

- 1 件 名 「旧後楽館中・高（天神校舎）跡地活用事業」に係る優先交渉権者の決定について
- 2 趣 旨 上記事業提案について、優先交渉権者を次のとおり決定しました。
- 3 応募事業者 3者
- 4 優先交渉権者 事業者名 山陽放送株式会社
代表者 代表取締役社長 原 憲一
住 所 岡山市北区丸の内二丁目1番3号
- 5 事業提案概要 別添資料1-1、1-1-参考、1-2、1-3
のとおり

旧後楽館中・高（天神校舎）跡地活用事業企画提案 事業概要

- 【事業名】 山陽放送株式会社 イノベーター・メディアセンター建設事業
- 【計画地】 岡山市北区天神町9番105他6筆
- 【敷地面積】 4,883.78㎡（1,477坪）
- 【延べ床面積】 約11,000.00㎡（3,328坪）
※今後の行政協議により変更あり
- 【構造】 地下1階 地上5階 電波塔
鉄筋コンクリート造・鉄骨造
中間免震構造
- 【施設概要】 ラジオ・テレビスタジオをはじめとした放送設備・電波塔・事務所及び催事ホール（RSK楽堂ホール：約200人収容）、カフェ・レストランを併設します。
- 【全体的な考え方】 1953年の創立以来60年余、弊社は「地域とともに」を社是として放送活動を行ってきました。民間放送事業者として番組制作、文化・教育・芸能・スポーツ等のイベント企画および運営などの業務を通じ、営々と積み重ねて参ったことは、それぞれの時代における岡山中心市街地の活性化、賑わい創出、回遊性の推進や周辺文化施設との連携、文化の創造・発信の一助になったのではと自負しております。

発展的継続と革新

今回の新社屋建設を機にRSK楽堂ホールなどの併設や新たな連携を駆使し、「文化芸術ゾーンと調和した、開かれた放送局」として、それら活動のさらなる「発展的継続」と「革新」を目指すイノベーター・メディアセンターをつくります。

緊急時における放送局の役割

放送局の役割として報道活動はもちろん災害時における県民の生命・財産を守るための対応は最重要課題です。中・四国でも予想される巨大地震に対して、テレビ・ラジオを活用した「災害情報ハブ」として情報を発信し続けます。また、新社屋には緊急用設備設置や備蓄を行うなど、BCPを基盤にした周辺地域への対応を行っていきたいと考えます。

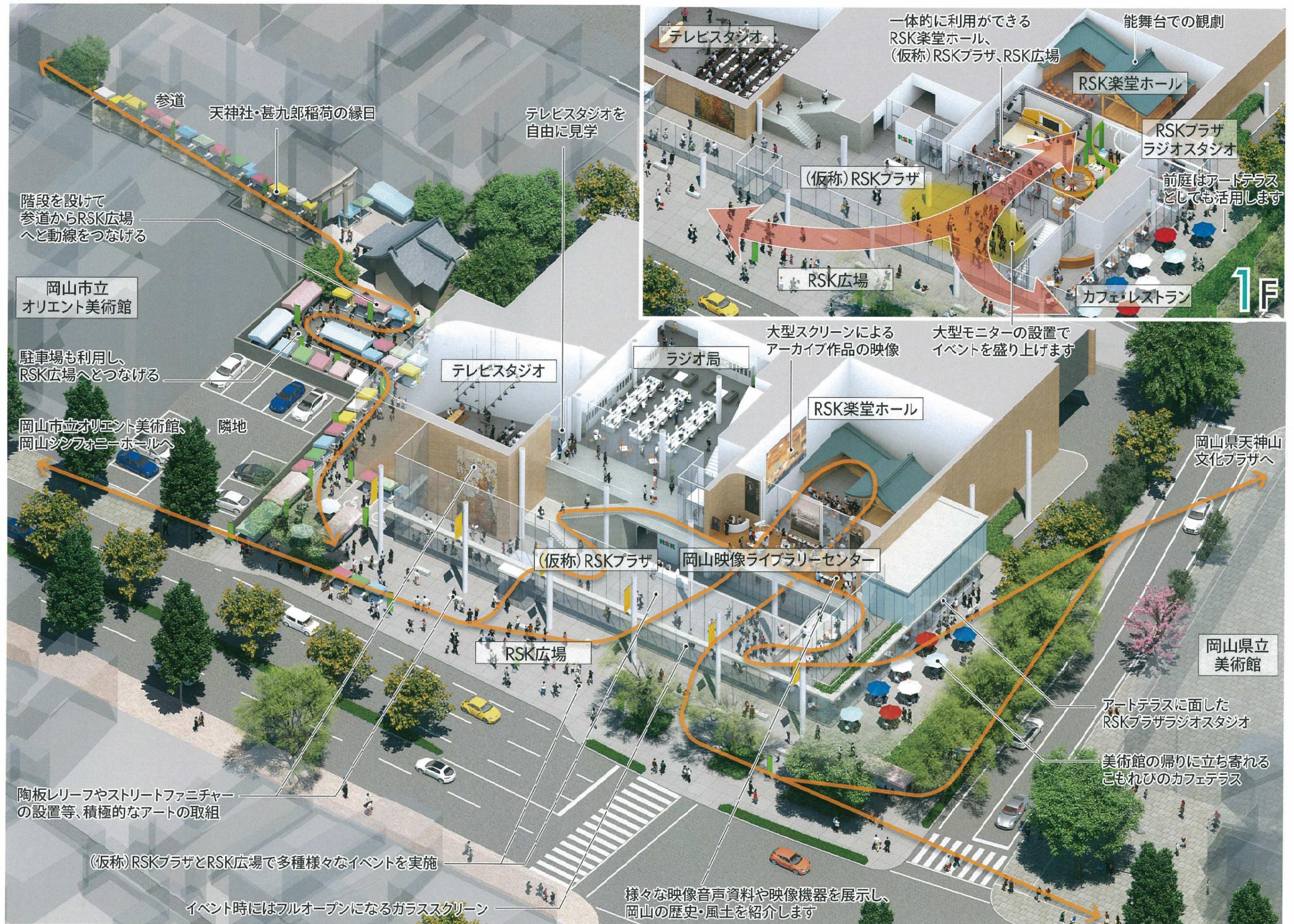
イノベーター・メディアセンター

- グローバル・メディアセンター
——岡山を世界に受発信する
- ライフスタイル・メディアセンター
——岡山の新時代のライフスタイルをリードする
- アート・メディアセンター
——新しい価値創造をプロデュースする
- オープン・メディアセンター
——地域とともに発展する



歴史や文化を紡ぎ、地域とつながるネットワークの構築

【様式6-3】



3館連携による広がりのある催事展開を行い、賑わいのある文化の創造に寄与します



事業概要

はじめに

この度は、「旧後楽館中・高（天神校舎）跡地活用事業」に企画提案の機会を賜り、誠にありがとうございます。

私どもは、『日本の様々な文化が濃密に集まった文化環境に恵まれた岡山』の地域特性を活かし、「日常」の中にあるアートを軸とした岡山市内への人の流入と、今までにない新しい動き、文化の創造・発信を行うべく、『岡山芸術交流』をはじめとする、様々な文化イベントを手掛けてまいりました。岡山に於ける多くの創業者の方々の伝統および先人の知恵を継承し、岡山市街および岡山カルチャーゾーンの中心地とも言えるこの立地に最適な機能を持った施設を設立すべく本事業をご提案させていただきます。

本事業は、岡山市の芸術文化のさらなる向上および振興を図り、豊かな地域文化の形成と発展に寄与するものと考えます。

基本理念

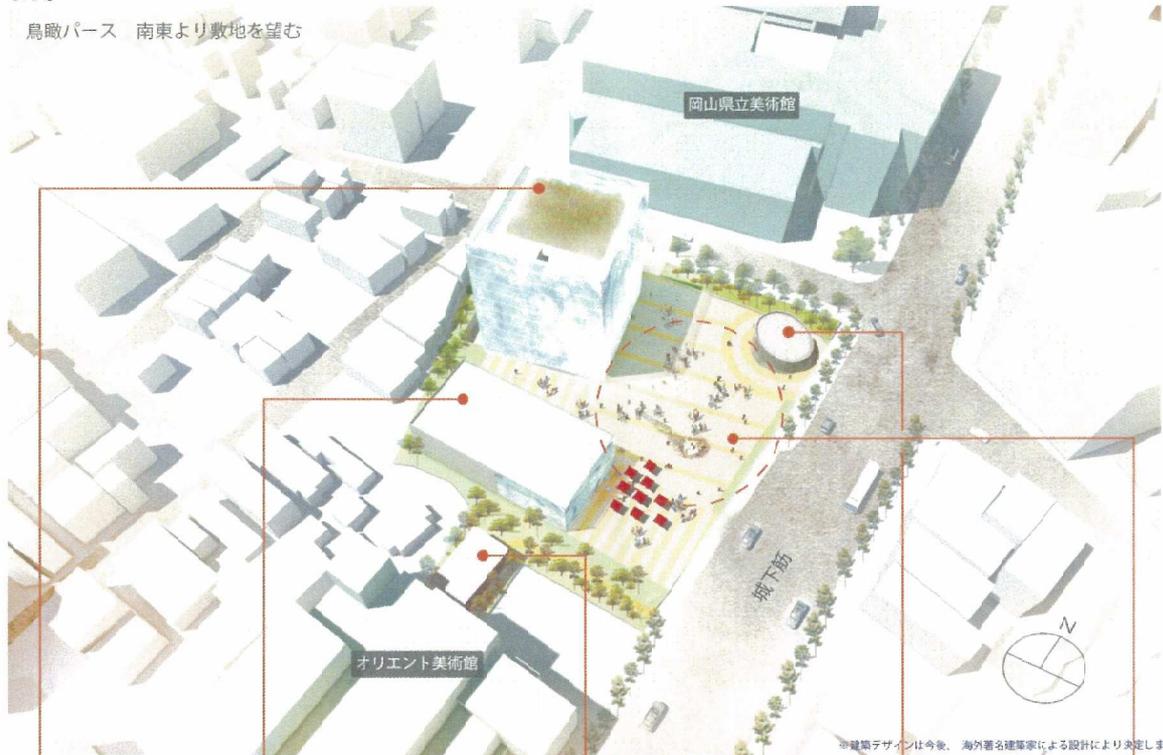
『日本の様々な文化が濃密に集まった文化環境に恵まれた岡山』の地域特性を活かし、「日常」の中にあるアートを軸とした岡山市内への人の流入と、今までにない新しい動き、文化の創造・発信を行います。

優れた美術作品を鑑賞するとともに、市民自らが創造的で多様な芸術・創作活動に参加することで、芸術文化の向上及び振興を図ります。また、地域経済社会のインフラとなるべき創造的人材の育成・誘致、NPO・ボランティアなどの市民活動の活性化をサポートするとともに、中心市街地の活性化や、観光客誘客に貢献し、街の賑わいを狙った施設とすることで、市民一人一人のシビックプライドを醸成、市民満足度の向上や、内外の人の往来を促進し、交流人口の拡大と共に、地域文化の形成と発展に寄与します。

美術館をコアとした地域文化形成の場の創造

多くの来訪者にとってのメインのアクセスとなる城下筋に面して、「アート・交流の広場“アゴラ”」を設け、本プロジェクトの要とします。それを囲うように、プロジェクト全体のシンボルとしての「美術館棟」、気軽に立ち寄れるカフェ・ショップと様々な文化活動の場の提供を行う「アーティストインレジデンス+商業棟」、様々な映像アート作品を鑑賞できる「シアター棟」、そして一流アーティストと建築家のデザインによる「アーティスト&アーキテクト宿泊棟」を配置し、様々な文化イベントと共に1年を通して多様な表情を見せる施設構成とします。

鳥瞰パース 南東より敷地を望む



美術館棟	アーティストインレジデンス+商業棟	アーティスト&アーキテクト宿泊棟	シアター棟	アート・交流の広場“アゴラ”
地域の新たなシンボルとして計画される美術館棟。様々な世界一流の芸術・美術作品が展示可能な柔軟な空間。地下には収蔵庫を設置。	地域の文化を育成し情報発信を行うコミュニティ施設と、地場産のたべものやグッズを楽しめるショップと多様なアクティビティの場。	岡山芸術交流の一環として行う、世界的な芸術家と建築家によってデザインされた空間に宿泊ができる施設。	来訪者に開放された独立したシアター空間。様々な映像アートコレクションを上映予定。	岡山芸術交流や地域のイベント等、四季を通して様々なシーンを生み出す、本プロジェクトの中心となる広場。

市民の様々なイベントを開催する「アート・交流の広場“アゴラ”」



地場特産カフェやショップまちに賑わいをもたらすアーティストインレジデンス+商業棟



地域の活性化に貢献し岡山芸術交流の核となるアート作品会場となる「アート・交流の広場“アゴラ”」



学芸員オフィスは商業施設の上層に配置



様々なタイプのアートを鑑賞できるフレキシブルなチャリタースペース



美術館来客者のための屋上庭園



天神山文化プラザ跡地による植栽と様々な機能を配置することにより前例のない個性あるアゴラに託す

旧後楽館中・高（天神校舎）跡地活用事業企画提案



●コンセプト

1. 当該敷地は過去には庶民文化の中心地として、現在では岡山のカルチャーゾーンになっている。この立地条件を活かし、過去から続く岡山文化の系譜を未来へ継承・発展させていく場としての機能を持たせる。
 - 歴史・文化・アート観光の拠点づくり：岡山文化の情報発信基地
 - にぎわいと回遊性の創出：近隣・岡山県・近県の観光資源を結び付ける拠点（回遊性を向上させる拠点）
 - 岡山文化の発見・再発見・発展の場：岡山文化を学ぶことができる場・発表できる場
2. 岡山県でも、南海トラフ地震、大規模洪水等、大規模災害に見舞われる危険性があるにもかかわらず、他県に比べ危機意識が低く、住民の避難場所やインフラダメージ時の対策は不十分のままとなっている。そのため、高台に位置する立地を活かし、耐震補強した当該建物及び駐車場に、大規模災害時の避難場所、防災拠点としての機能を持たせる。

●施設概要：農政局時代の本館部分を耐震改修とリノベーションにより、利用方針に準じたスペースを創出する。

○配置計画：回遊性を向上させる拠点として「観光めぐりバス」の発着場・近隣の観光施設のための「駐車場」を整備・「ももちゃり」サイクルポートを増設・サイクリング回遊者のための「サイクルポート」を整備する。

○ 平面計画

- ・ 1階：地域住民・市民の交流のフロア：交流広場、多目的ホール
- ・ 2階：岡山文化発見のフロア：展示室（伝統・文化・工芸、現代アート）、映像ライブラリー（古代吉備文化、伝統工芸・アートツーリズム）
- ・ 3階：岡山の食文化・学びのフロア：調理教室、展示室（岡山の食文化）、ワークスペース
- ・ 4階：新エネルギー・施設管理のフロア：展示室（エコエネルギー・クリーンエネルギー・災害対策）
- ・ 5階：施設管理のフロア
- ・ B1階：カフェ、アンテナショップ、工房、収蔵庫、備蓄倉庫
- ・ 屋上：施設利用者・地域住民・市民・観光客の憩いのスペース、環境負荷低減スペース（屋上緑化、太陽光発電）
- ・ 展望台：岡山の街や旭川を見渡すことができるスペース（明治中期の重公園にあった7階建ての集成閣の再現をイメージするもの）

○ 立面計画

- ・ 外壁は1・2階部分を岡山県産「万成石」貼り、3～5階部分を「タイル」貼りとし、周囲の建物と色調・素材を合わせることで、景観の調和を保ち、統一された街並みを形成させる。
- ・ 当該建物に「屋上緑化」「壁面緑化」を行い、外構部分にも「芝生舗装駐車場」や「植樹林」を設置し、良好な景観を形成し、人々に癒しの空間を提供すると共に環境負荷低減に努める。
- その他：大規模災害時対策として、耐震補強した当該建物及び駐車場は、大規模災害時の避難場所として利用する。LPガスを「バルク」という大型容器で常に保管し、災害発生時、停電となっても、炊き出しや暖房、お湯の供給、発電ができる。またLPガスを利用した激甚災害への対応及び援助指令としても機能を持たせる。